

1. 日本電産会長永守重信氏の経営手法を診る

6月11日と12日の二日間、日本経済新聞に小型モーターの雄日本電産に関する記事が掲載されていました。日本電産の社長は永守重信氏。ソフトバンクの孫正義氏、ユニクロの柳井正氏の2名を加えて三大ほら吹きと揶揄する方々もいます。しかしいずれも創業者であり、かつ世界を相手に巨大企業グループを創り上げ動かしています。

右の図表は11日の記事に掲載されていた日本電産の成長実績を示す資料です。**平成の30年間で日本電産は連結売上高500億円から1兆5200億円へ、連結営業利益は40億円から1400億円へと驚異的な伸びを達成しました。**これは上場企業の中でトップだそうです。

**日本電産は過去63件ものM&Aを行ってきました。特筆すべきは全て成功し失敗は1つもない事です。**メディアを賑わすリクシル(LIXIL)も元を質せば海外企業のM&Aの失敗による終戦処理が発端です。会社が倒産しかかった例では東芝。米国原子力子会社の不振等もあり、優良であった半導体事業を2兆円で売却し存命を図っています。

にも係らず、日本電産は1つの失敗もないのです。63件もM&Aをしてもです。永守会長の著作を読んだことがありますか？私は第三者が書いた本も読んでみましたが、永守会長の経営に対する執念には凄いものがあります。

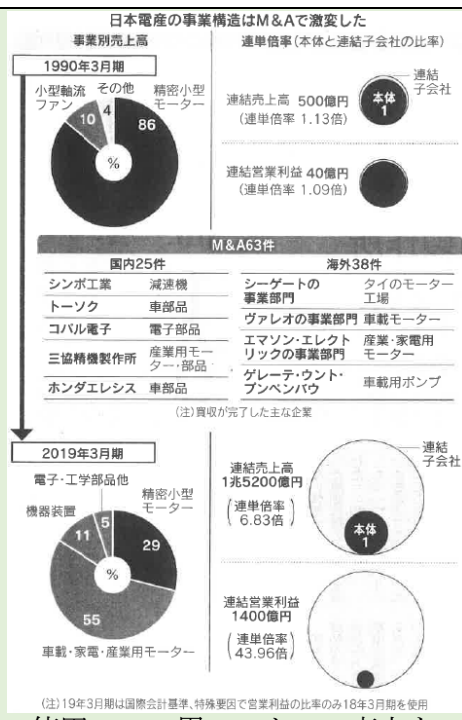
M&Aの成功例として日本電産サンキョーがよく挙げられます。長野県諏訪郡に本社を置き、以前は三協精機という社名でした。冬季オリンピックのスピードスケートでは多数のメダリストを輩出しています。この会社は**M&A前の決算では100億円超の赤字**でした。

永守会長は手弁当で1円の報酬も貰わず全て自費でサンキョーに出かけ、1円単位で伝票をチェックし**1年半後に最高益を達成**しました。永守会長は最初にこう言ったそうです。「机の中にある消耗品を全て出さない」。筆記用具等々がぞろぞろ出てきました。各社員が自分の机の中にしまい込んでいたのです。しかし、毎年秋口になると新品を購入する。**悪しき予算制度に縛られていた**のです。

集められた消耗品類は1年間購入しなくても余るほどだったようです。これで数百万の経費カットとなりました。

しかしコスト削減だけでは企業成長はできません。米中貿易戦争の中で、日本電産は中国に今年4月300億円を投じてEV用モーターの生産を始めました。追加で550億円の投資も予定しています。これにより現在3000億円のEV用モーターの売上を2年後に6000億円にする計画です。

**細部までチェックするマイクロマネジメント。一方でリスクをとって果敢に挑戦する。「経営をなめるな。会社は自分達で守るしかない」と永守会長。**この機会に永守重信流経営に関心を持たれてみては如何でしょうか。



2. 自助努力による老後資産積立の勧め

この1週間、金融庁が出した報告書が国会や世間を賑わせました。「夫婦二人が95歳まで生きるとすると年金だけでは毎月5万円の不足が生じる。年金以外に2000万円の用意を」というもの。

野党や口の悪い外野はこれを政府・与党の攻撃材料にしようとしています。麻生財務相も「正式な報告書として受け取らない」という迷言が飛び出し、「収まりがつかない」昏迷状態です。

しかし全ての国民は老齢年金だけで安心した老後を過ごせると思っているのでしょうか。現役時代に高い報酬を貰っていても**年金原資となる標準報酬月額が62万円**で打ち止めです(健康保険の上限は139万円)。個人差はありますが貰える年金額は基礎年金を入れて最大で月額25万円位です。

**公助だけに頼るのではなく自分で資金を貯める自助を考えましょう。**一日一箱吸う愛煙家は禁煙すると、30年間で548万円(500円/箱×365日×30年)も貯まります。「塵も積もれば山となる」のです。**まずは小さい所から始めてみましょう。**